



halcionの夜。
空っぽの朝。
氷塊のisolation。

輻輳のsubliminalは、
虚構のまどろみに翻弄され、
真空は漆黒の闇に閉ざし、

退屈をくだらない理屈で日々埋め尽くす · ·

· · · · ·

loudなboothで、
気の抜けた
ソーダ-水は
あの夏の失恋。
自墮落なromance。

儂さ彩るアルグレイ。
香るde ja vuは、
曇り硝子になぞる
wetなcall · ·

· · · · ·

あなたの面影は眺める車窓を
いつまでも何処までも追い
続けてくる夜空の月でした。

二人の音響はdoppler effect。
あなたの列車は見失う程遠ざかり、
私は呆然と未練の尻尾を見送るだけ。

繰り返し訪れる朝に傷を晒され、
拡散したガラスのshieldを拾い集めては、
いつの日も怯えていたよ . . .

.

Before all fails . . .
全てが壊れる前に。

At least only now . . .
せめて今だけは。

A little more as it is . . .
もう少しだけこのままで。

抽象的rheologyで、
懇願するrecursive・callは、

漸次淡くせつない折り合いの空間へ繋ぐ
瞬く蒼い海のserendipity . . .

.

軛のテリス。
雁字搦めのレイアウト。

上手く泳げるか
泳げないかで成り立つ
予め緻密な演算子で計算された
dryな俯瞰からの

このabstractな
aquariumで、

知らぬ間に体内に設置
される幾つかの爆破装置。

僕達はいつだって
それを抱えて生きている。

．．．．．

rhetoricな集積回路に
組み込まれたtraffic。

追えば追うほど
酸化するfragile。

統合されない。
融合されない。
累積される絶望感。

ああ、宇宙の果てのmissing link ．．

．．．．．

喪失の朝、
脆弱なPlana . . .
心許無さ映し出す、
落胆のfalse · dawn（偽りの夜明け）。

ジリジリと照り返すアスファルト熱が、
もうじき体の芯まで焼け尽くす。

告知された死を駆け上がるように磨耗を歩くんだ . . .

.

時折、運命の引き潮は
忽ち穏やかな光を撒収し始め、
線分の集合が一致した蓋然性は、
極小の点在地に差し掛かる。

無限Reynoldsの海は、
剽悍過ぎて1人ではきっと泳げない。

雑踏に埋もれてRaison detreが
失われてしまったとしても、
きっとまたキミを探してしまう。

潮流から逸脱して、
この地球上から振り落とされて
しまったとしても、

ああ、どうか、もう一度私を見つけて欲しい . . .

.....

激しく身体に降り掛かる
相殺の雨。

宇宙いっぱい手を翳し
虚空に乞う様に。

朽ちた信頼銜えながら、
ハッ撒く mitlet- pessimism 。

.....

思考の希釈で、
失われてゆく貴方を想う美しき euphoria ・・・

ああ、慈悲心かく慈愛あまねき御神、
審きの日の主宰者。

願わくば我らを導いて正しき道を辿らしめ給え ・・・

.....

Cannot heal it; is not softened;
cannot cool off.
癒せない、和らげられない、冷却できない。

Sisyphusの疑問符と、不協和音。

under pressure . . .

圧力の下で、

When I must not refuse it now,

I learn it.

今、僕はそれを、拒否してはならないと、
学習している。

.

記憶の底から突き上げてくるものは、
押し寄せるPororoocaに吞まれて
揮発するbubbleの唄。

巡り巡る。

笑止の果てまで . . .

.

In this town none of the desires.

この街では欲求が全て。

The poisoning patients who
was possessed in "longing" and "delusion".
"熱望"と"妄想"に取り憑かれた中毒患者達。

If I forget to demand it,

In this snow raining steadily,

I will be buried among anyone

without being looked for . . .

求める事を忘れてしまえば、
この降りしきる雪の中、
誰にも探されずに埋もれてゆくだろう . . .

.

愛はcelluloid-セルロイド。
陰謀はmystery-ミステリー。
欲望はalkaloid-アルカロイド。

蠱惑な攪乱、
淫乱なpickingで、

爪を立てて忍び寄る
戦慄のsimulacre。

ああ、ホクは畸形なfigure . . .

.

乱して、
壊して、
癒して、
満たして . . .

ここではない何処かへ
キを連れて逃れようと、
遥か遠いrising sunを待っていた。

夢から覚めてもまだ夢であって欲しいと、
僅かなI初キ-をこの大地に託して . . .

.....

焼き尽くす真夏の太陽
甘い罨。
絡まる指先は滑り落ちる美しい暴力。

弾む鼓動
短命なりズムで ..

それはまるで封じ込まれた死者達の叫び。
求めては途方に暮れる。
楽園という名の処刑台。

凍て付く切望、
遣る瀬無い嘆きの忘却の空へ ..

.....

握るものは反古になったpaper・asset。
守りたいもの、この手の平から
一滴残らず零れ落ちてゆきそう。

無力な不甲斐無さ、のしかかる。
どうか受け止めて。
明日という意味を示す為に ... !

above the law .. (法律を越えて)
求める“騰籠換鳥”、
仰げば永久に、
尽きぬanxiolytic ..

.....

待ちわびるresponse。
同調するprotocol。
存在が摩擦するfunction。

”Curiosity killed the cat”
好奇心は猫を殺す。

恋するnoesisと、
夢見るhyle。

ある日Qliphothの醜悪が、
囁いたCapgras。

「ああ、信じていたのに・・・」
と、符号は暗転。

満足出来ねば、

to be reduced to ashes
烏有に帰する・・・

と、猫は泣く。

.....

僕らはこの実体のないparallel worldで、

対象を洞察し、

中庸を装い、
自分を知り妥協へ帰納しては
細胞の変換を冪等し、
ひたすら不動点に沿ってゆく。

そう、僕らはバグをstrokeし、
反復している、
ただpanopticon型のジオラマに詰め込まれた
統計を創るだけのくだらない産業者なのかもしれないね ・・

.....

We buy the lie to sell the dream.

僕等は夢を売って嘘を買う。

An ulterior motive of people just can not talk numbers,

数字だけでは語れない人々の思惑が、

Sandstorm of fear and desire is that the side blow,

恐怖と欲望という横殴りの砂嵐が、

Well, sad was dry enough to ...

そう、悲しい程に乾いていた ・・・・・・・・・・！！

.....

軋轢の霹靂で今にきつと世界が割れる。

そんな気分。

突き刺さる呵責のsquall。

"I was with the intention that I know."

「私は分かったつもりでいました。」

Bye・bye。

失われたsanctuary . . .

anymore、

evermore . . .

澱んだ流暢、

そうね、餞にはまだ遠い . . .

.

流れる水脈は下水道へ繋がる

排水溝の底で見るといびつな夢 . . .

キミの瞳の奥に瞬く銀河は

僕の視点とは交わらない . . .

大切な言葉は形骸な概念として

echoになり、さざ波を立てては闇へ還る。

脳髓を穿つ苦悩、逡巡、怨念、本音 . . .

堅牢な宇宙の拘束からは離脱

出来ずにいる僕等は、

そんな座標行程さえまだ

解らずにいた . . .

.

呆然と愁然。

ここではアドリブの効かない
シリアスな**nonfiction**。

彼がくれた

doubtのカード。

これ以上ない冷めた視線で
あのコが訝しげに笑う。

無心で翳す手の平に零れ落ちる涙は
君の元へ叶わぬ確かな真実。

手錠掛けの煉獄の延滞。

狂った経路でピリオドは打てない。

シブスを黙せて。

懇願のリズムで

．．．．